

# 平成30年度 全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 枝光 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	71	4.3	54	8.6	61	5.0	50	9.6	60
全国	8.5	71	4.4	55	8.9	64	5.1	52	9.6	60

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率をやや下回っていたが、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項については基礎ができてきた。 ・「書くこと」の領域について課題がある。
	よってきた問題	・文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く問題については全国平均正答率と比べ、高かった。
	努力が必要な問題	・自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成を考える問題については、正答率が低かった。
国語B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回っていたが、ほとんどの設問において無回答がなく、最後まであきらめずに回答していたことが分かる。 ・特に「読むこと」の領域について課題がある。
	よってきた問題	・あることを推薦するためには、他の物と比較して書くことで、よさが伝わることを捉える問題については、正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む問題については、正答率が低かった。
算数A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回っていた。 ・特に「数と計算」「数量関係」領域について課題がある。
	よってきた問題	・単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味を問う問題については、全国平均正答率と比べ、高かった。
	努力が必要な問題	・十進位取り記数法で表された数の大小について問う問題については、全国平均正答率と比べ、低かった。
算数B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回っていたが、無回答率は全国平均無回答率よりも低かった。 ・特に「数量関係」領域について課題がある。
	よってきた問題	・示された課題を解釈し、条件を変更して考察した数量の関係を、表現方法を適用して記述する問題については、全国平均正答率と比べ、高かった。
	努力が必要な問題	・示された課題を解釈し、条件を変更して考察し、分配法則の式に表現する問題については、全国平均正答率と比べ、低かった。
理科	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率と同程度だった。自然事象への関心・意欲・態度は高かった。 ・A区分「エネルギー」の領域については課題がある。
	よってきた問題	・安全に留意し、生物を愛護する態度をもって、野鳥のひなを観察できる方法を構想する問題においては、全国平均正答率と比べ、高かった。
	努力が必要な問題	・電流の流れ方について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想する問題については全国平均正答率と比べ、低かった。

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分には、よいところがあると感じている児童は全国平均よりも多い。今後も、学級活動の充実やあったか言葉の取組を行うことで、児童の自己肯定感をさらに高めていきたい。</li> <li>・将来の夢や目標をもっている児童は全国平均よりも多い。今後も、総合的な学習の時間でを行う保育士体験を行う等、キャリア教育の充実を図っていく。</li> <li>・家で、自分で計画を立てて勉強している児童は全国平均よりも少ない。「枝光小 自主学习メニュー」を使っての自主学习への取組や「自主学习ノート紹介コーナー」の取組を今後も継続していく。</li> </ul>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝学習の時間に算数の練習問題に取り組み、計算の技能の習熟等を図る時間を設定する。</li> <li>・枝光ルールの共通理解及び徹底を図る。(用具、服装、姿勢、板書・ノート、学び合い方、時間配分等)</li> <li>・主題研究の取組を軸に、授業の中で思考の可視化と学び合いを位置付けることを、全学級で徹底する。</li> </ul>
--

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の自学ノートを紹介するコーナーを校内に設置したり、「枝光小 自主学习ヒントメニュー」を作成し、配付したりして家庭学習の取組への呼びかけを行い、質の向上を図る。</li> </ul>
--